

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
アルゴリズム	4-1統計および数理基礎		
アルゴリズム	4-2アルゴリズム基礎		
プログラミング基礎	4-3データ構造とプログラミング基礎		
データベース I	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 ・社会で起きている変化(データ駆動型社会・Society5.0)、データに関する基礎的な知識(情報量の単位、二進数、文字コード等)「データサイエンス概論」(1回目)
	1-6 ・データ・AI利活用の最新動向、AIを活用した新しいビジネスモデル、AIに関する最新技術(シェアリングエコノミー、レコメンデーション等)や、さまざまなAI技術要素(深層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、変分オートエンコーダー、潜在空間、敵対的生成ネットワーク(GAN)、強化学習、転移学習)、「データサイエンス概論」(7回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 ・社会で活用されているデータ(ビッグデータ)、「データサイエンス概論」(2回目)
	1-3 ・新たな技術の進展によって起こる様々な分野でのデータとAIの活用領域の広がり、データを活用した一連のプロセスの体験、様々な領域(仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定・判断支援・活動代替等)でのデータサイエンス活用、「データサイエンス概論」(3回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 ・様々なデータ解析の具体的内容、データサイエンス概論(4回目) ・様々なデータ可視化の方法(可視化目的(比較、構成、分布、変化など)に応じた図表化の判断や、1次元、多次元の可視化方法として、各種グラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、積み上げ棒グラフなど)や散布図、散布図行列の他、関係性の可視化をするネットワーク)やAIの歴史と現状(推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステムに対応したAIや、汎用AI/特化型AI(強いAI・弱いAI)、フレーム問題)、「データサイエンス概論」(5回目)
	1-5 ・データ・AI活用の現場(データ分析による意思決定(現状分析と課題抽出、仮説と予測モデルの作成、予測モデルの分析)や、AI利活用事例(製造、公共、インフラなど))、「データサイエンス概論」(6回目)

(4)活用に応じた様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・データ・AIを扱う上での留意事項(AI倫理、AIの社会的受容性の他、AIに関する原則やガイドライン、AIの説明可能性、トラスト(信頼性)、公平性)、「データサイエンス概論」(13回目)
	3-2	・セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項(情報セキュリティ(機密性・完全性・可用性)等)や情報漏洩等によるセキュリティ事故、「データサイエンス概論」(14回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類、データの代表値とばらつきの指標、打ち切りや脱落、「データサイエンス概論」(8回目) ・複数のデータの関連性を捉える方法、「データサイエンス概論」(9回目)
	2-2	・データをグラフや図(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、積み上げ棒グラフ、箱ひげ図、ヒートマップ、等)を使って分かりやすく表現する方法、データを比較する方法(条件をそろえた比較、処理の前後での比較等)、実際の可視化事例や不適切なグラフ表現、「データサイエンス概論」(10回目)
	2-3	・統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、データの集計、並び替えを学ぶ、「データサイエンス概論」(11回目) ・統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、ヒストグラムや散布図の描き方を学ぶ、「データサイエンス概論」(12回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる。

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
データサイエンス概論	2	○		○	○						
情報リテラシーII	2	○		○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報リテラシーII	4-3データ構造とプログラミング基礎		
アルゴリズム	4-1統計および数理基礎		
アルゴリズム	4-2アルゴリズム基礎		
プログラミング基礎	4-3データ構造とプログラミング基礎		
データベース I	4-7データハンドリング		

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・社会で起きている変化(データ駆動型社会・Society5.0)、データに関する基礎的な知識(情報量の単位、二進数、文字コード等)「データサイエンス概論」(1回目) ・数理・データサイエンス・AIによる社会の変化(Society5.0、ビッグデータ、IoT等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目) ・ネットワーク、ビッグデータ、AI活用が進む社会における課題、「情報リテラシー I」(2回目)
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI利活用の最新動向、AIを活用した新しいビジネスモデル、AIに関する最新技術(シェアリングエコノミー、レコメンデーション等)や、さまざまなAI技術要素(深層ニューラルネットワーク、畳み込みニューラルネットワーク、変分オートエンコーダー、潜在空間、敵対的生成ネットワーク(GAN)、強化学習、転移学習)、「データサイエンス概論」(7回目) ・データ・AI利活用の最新動向(保育現場での利活用等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目) ・ネットワーク、ビッグデータ、AI利活用が進む社会の動向、「情報リテラシー I」(2回目)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・社会で活用されているデータ(ビッグデータ)、「データサイエンス概論」(2回目) ・ビッグデータの活用、「情報リテラシー I」(2回目) ・数理・データサイエンス・AIにおいて活用されるデータ(ビッグデータ、ログデータ、構造化データ、非構造化データ等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目)
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> ・新たな技術の進展によって起こる様々な分野でのデータとAIの活用領域の広がり、データを活用した一連のプロセスの体験、様々な領域(仮説検証・知識発見・原因究明・計画策定・判断支援・活動代替等)でのデータサイエンス活用、「データサイエンス概論」(3回目) ・データとAIの活用領域(医療、介護、交通、防災、子育て支援等)、「こどもコミュニケーション論」(14回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> ・様々なデータ解析の具体的内容、データサイエンス概論(4回目) ・様々なデータ可視化の方法(可視化目的(比較、構成、分布、変化など)に応じた図表化の判断や、1次元、多次元の可視化方法として、各種グラフ(棒グラフ、折れ線グラフ、積み上げ棒グラフなど)や散布図、散布図行列の他、関係性の可視化をするネットワーク)やAIの歴史と現状(推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステムに対応したAIや、汎用AI/特化型AI(強いAI・弱いAI)、フレーム問題)、「データサイエンス概論」(5回目) ・データ・AI利活用のために用いられている技術(AIとビッグデータ、非構造化データ処理、認識技術、パターン発見等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目)
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用の現場(データ分析による意思決定(現状分析と課題抽出、仮説と予測モデルの作成、予測モデルの分析)や、AI利活用事例(製造、公共、インフラなど))、「データサイエンス概論」(6回目) ・データ、AIの活用の事例研究と課題考察、「情報リテラシー I」(7回目)

(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データ・AIを扱う上での留意事項(AI倫理、AIの社会的受容性の他、AIに関する原則やガイドライン、AIの説明可能性、トラスト(信頼性)、公平性)、「データサイエンス概論」(13回目) ・データ・AI利活用における倫理とセキュリティ(ネットワーク上の情報活用とセキュリティ、ネットワーク上に潜む危険と対策、デジタル時代の著作権と教育的利用)、「情報リテラシー I」(7回目) ・データ・AIを扱う上での留意事項(ELSI等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項(情報セキュリティ(機密性・完全性・可用性)等)や情報漏洩等によるセキュリティ事故、「データサイエンス概論」(14回目) ・データの保護(OECDプライバシー8原則等)、「こどもコミュニケーション論」(13回目) ・教育機関における個人情報の適切な取り扱い及び個人情報の問題の事例研究、「情報リテラシー I」(2回目)
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・データの種類、データの代表値とばらつき指標、打ち切りや脱落、「データサイエンス概論」(8回目) ・複数のデータの関連性を捉える方法、「データサイエンス概論」(9回目) ・統計データの扱いと読み取り(データベースの基礎、データの種類、データの抽出等)、「情報リテラシー II」(5回目)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データをグラフや図(棒グラフ、折れ線グラフ、散布図、積み上げ棒グラフ、箱ひげ図、ヒートマップ、等)を使って分かりやすく表現する方法、データを比較する方法(条件をそろえた比較、処理の前後での比較等)、実際の可視化事例や不適切なグラフ表現、「データサイエンス概論」(10回目) ・統計データの扱いと読み取り(実データの視覚的表現と説明、データの読み取りと解釈)、「情報リテラシー II」(6回目)
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、データの集計、並び替えを学ぶ、「データサイエンス概論」(11回目) ・統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット(SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、ヒストグラムや散布図の描き方を学ぶ、「データサイエンス概論」(12回目) ・統計データの扱いと読み取り(実データの並び替え、検索、抽出等)、「情報リテラシー II」(5回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる。

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
 (責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

 (責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和4年度実績	4%	令和5年度予定	20%	令和6年度予定	50%
令和7年度予定	75%	令和8年度予定	100%	収容定員(名)	2,200

具体的な計画

本学では、メディアコミュニケーション学部(マス・コミュニケーション学科、情報文化学科)、社会学部(人間心理学科、経営社会学科、現代社会学科)は、「データサイエンス概論」を履修すること、メディアコミュニケーション学部(こどもコミュニケーション学科)は「情報リテラシーI」「情報リテラシーII」「こどもコミュニケーション論」を履修することを、本プログラム履修者と定義している。令和4年度より本プログラムを開始し、ガイダンスにおいて科目履修マニュアルを用いて周知を図り、学生に対してプログラム履修を奨励している。今後は、学内電子掲示板への掲示や、プログラム履修によって得られる能力等の周知を通じてプログラム修了者を増やしていく予定である。また、全学部において履修がしやすいような開講形態および開講区分を検討していく。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

メディアコミュニケーション学部情報文化学科開講の「データサイエンス概論」を、他の学部・学科学生は「他学部・他学科履修制度」を用いて履修することで、希望する学生が受講可能となる体制をとっているが、令和4年度においては、履修上の制約により当該科目を履修できない状況にあったメディアコミュニケーション学部こどもコミュニケーション学科学生には、別科目の中で同等の内容を教育できるように内容調整を行い、これを実行した。なお、令和5年度より、例外なく全学部において同一科目にて履修ができる体制を整備するとともに、開講期を後期集中講義科目としてキャップ制に関係なく履修できる科目と位置づけた。また、全14回の授業中6回をオンデマンド型で実施し、残りの8回を集中講義開講期間に実施することで、学部・学科に関係なく時間割の重複を避けて履修できる環境を整えることを決めた。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

全学生に配布する科目履修マニュアルにプログラムに関する説明を記載、入学後の学部ガイダンス、学科ガイダンス(情報文化学科)での説明に加え、本学のホームページにプログラム専用ページへのリンクを掲載して、学生が情報を受け取りやすい環境を整備している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

高校までで修得すべき数理・データサイエンス・AIに関する内容(基礎数学、確率、統計等)について、大学初年次向けのリメディアルeラーニングシステム「エドリル」で取り扱っている。このエドリルについて、サポートデスクとして非常勤職員を週3回程度常駐させており、不明点等の問い合わせに対応できる体制を整備している。このような体制により、データサイエンスに苦手意識がある学生に対しても、高校までの学びなおしを推奨し、データサイエンスに関する科目の履修・修得を支援している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

「データサイエンス概論」および「こどもコミュニケーション論」において、Google Classroomに授業資料を掲示して課題の提出を行っており、提出された課題へのフィードバックや、コメントを受け付けることで、授業時間外での学習指導、質問を受け付けている。また、シラバスに担当教員のメールアドレスを掲載し、授業時間外の質問ができる体制を整えている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

情報教育研究所

(責任者名) 玉田 和恵

(役職名) 情報教育研究所長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本プログラムは開設されて間もないためプログラム修了要件を満たしている学生が少ないことは仕方ないと考えられ、複数の学部において修了要件を満たした学生が存在していることは評価できる。しかし、全学的に見た場合、履修者及び修了要件を満たした学生が特定の学科に偏っている現状は、好ましい状態ではないと判断する。現在、学内の各学科において教育課程の改革が検討されており、いずれの組織においてもデータサイエンス関連科目の重要性を認識した上で新たな教育課程の構築を進める必要があると考えられる。令和5年度より、本プログラムの対象科目の開講形態を集中講義とすることで、多くの学生の履修を促進することができると考えられる。今後のプログラム履修・修得状況の改善に向けた取り組みは着実に進行していると考ええる。</p>
学修成果	<p>全授業で授業評価アンケートを行っており、学修成果(「社会におけるデータ・AI活用」「データリテラシー」「データ・AI活用における心得」などを学んで修得した知識・技能)を担当教員が確認し、「自己評価」や「授業改善」を行っている。それを基に、PDCAサイクルを回しながらカリキュラム及び授業改善を行い、学生の数理・データサイエンス・AIに関する資質・能力の向上を図っている。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>全授業で授業評価アンケートを行っており、該当科目全体の履修学生の理解度、到達目標達成度を情報教育研究所で点検を行っている。学生の理解度についての自己評価は十分と言える領域までは達していないが、「興味・関心」についてはある程度促進できているということが伺える。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>授業評価アンケート等の結果から、授業科目を履修した学生は数理・データサイエンス・AIに関する必要性や重要性は十分に理解できており、自分自身がそれらを修得する必要性があるとともに、後輩にも修得して欲しいという気持ちを持っていることが伺える。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>現在、全学的に「数理・データサイエンス・AI教育」の普及促進を図ることを目標として掲げている。履修者数向上には、入学前の認知度を高める必要があり、ホームページ、大学案内、広報誌、公式YouTubeチャンネル、進学ポータルサイト、WEBメール等により高校生への周知を強化する。在学生への周知が十分ではないため、令和5年度は「科目履修マニュアル」への記載に加えて、学生ポータルサイト「エドボタ」の電子掲示板において、履修することのメリットや修了要件等を改めて分かりやすく説明する掲示を行い、履修手続きにつなげていく計画であり、その取り組みが期待される。今後数年をかけて、履修率の向上に取り組む姿勢が伺える。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>現在のところ本プログラムの履修証明を受けた者の中から卒業生が出ていないため、評価材料がない。卒業生が出た後に、就職先等を調査する予定である。</p> <p>情報教育研究所を中心に、日頃から企業・自治体の担当者と情報教育に対する意見交換を行っている。その中で、データサイエンスやAI、情報セキュリティ等のリテラシー教育について、本教育プログラムに期待することや実務で必要な知識・スキルに関する情報を収集している。本教育プログラムに対しては協力企業の担当者から、大いに期待できるという意見をいただいている。今後は、産業界との連携を含めた実践的な取り組みをさらに進めていくことが必要である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>例えば、スマートスピーカーや自動運転など、驚異的に発達したAIを活用した技術が私たちの日常生活の中に浸透してきている実例を示しながら、こうした身近な例により、どう目的でAIを活用するか、どうアルゴリズムを使うか等、人間が理解し、考えて活用することの重要性やこれからの社会への影響力を意識させることを心がけている。特に最近話題となっている生成系AIなどについて、技術としてどのように活用すると有効か、倫理的に課題となるのは何かなどを、学生自身に考えさせることによって「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」が体感できるよう工夫している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>文科系の学生に適した数理・データサイエンス・AI教育のあり方を最大の課題として検討している。全学共通で受講できる内容・水準となるよう努めている。知識やスキルの差を補うために講義資料を工夫したり、内容は身近な話題やメディアで注目されたトピックを紹介する等、学生が興味を持ち、自分ごととして考察できるテーマを中心に選択している。授業終了後の理解度や質問・感想コメントの確認、学期末ごとに実施している授業評価アンケートにより、授業の難易度、授業方法の工夫、資料の分かりやすさ、時間配分、課題の量等について逐次改善を図ることとしている。</p>

教員名	松尾由美 (T-0504)、八木 徹 (D-0103)、山口 敏和(T-0603)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	データサイエンス概論				
学期※2	2022年度後期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題							
授業の概要	<p>包括的な目標：今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることを目指します。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになることを目標とします。</p> <p>内容：上記の目標を達成するため、この科目では、以下の3つのセクションについて学びます。 1. 社会におけるデータ・AI活用(第1回～第7回)：社会のさまざまな領域でデータ・AIが活用され、新たな価値が生み出されていることを学び、数理・データサイエンス・AIを学ぶことの意義を理解する 2. データリテラシー(第8回～第12回)：データを適切に読み解いたり、説明する力を養う 3. データ・AI活用における留意事項(第13・14回)：データ・AIを活用する上で知っておくべきことについて学ぶ</p> <p>この科目は、対面(面接)授業科目として、原則、対面で実施し、資料の配布・課題の提出・小テスト等にGoogleClassroomを使用します。 なお、新型コロナウイルスの感染状況によって、オンライン授業を実施する場合には、GoogleMeetを使用したリアルタイムでの動画配信とGoogleClassroomを使用したオンデマンドでの動画配信を併用します。</p>						
到達目標	<p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「(1)知識と体験を基に、批判的かつ洞察的に思考し判断することができる」「(2)教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」というディプロマポリシーに関連し、「1：社会におけるデータ活用」において、データ・AIによって、社会および日常生活が大きく変化していることを理解し、データ・AIを活用する価値を説明できること、さらに、「3：データ・AI活用における留意事項」において、データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理、データ駆動型社会における脅威(リスク)や個人のデータを守るために留意すべき事項について理解することを到達目標とする。</p> <p>さらに、メディアコミュニケーション学部の「(4)コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる」というディプロマポリシーに関連し「2：データリテラシー」において、データの比較対象を正しく設定したり、適切な可視化手法を選択することで、データの特徴を読み解き、起きている事象の背景や意味合いを理解したり、他者に説明できることを到達目標とする。</p>						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容	
第1回	<p>ガイダンス・社会で起きている変化(担当者：山口・八木・松尾) ：社会のさまざまな領域でデータ・AIが活用されることで起きている変化について学ぶ。 予習：教科書「1.1 社会で起きている変化」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第2回	<p>社会で活用されているデータ(担当者：山口) ：ビッグデータはどういうものか理解を深め、社会で活用されている様々なデータについて学ぶ。 予習：教科書「1.2 社会で活用されているデータ」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第3回	<p>データとAIの活用領域(担当者：山口) ：新たな技術の進展によって起こる様々な分野でのデータとAIの活用領域の広がりについて学ぶ。 予習：教科書「1.3 データとAIの活用領域」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第4回	<p>データ・AI活用のための技術(1)(担当者：山口) ：様々なデータ解析の具体的内容について学ぶ。 予習：教科書「1.4 データ・AI活用のための技術(1.4.1~1.4.5)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第5回	<p>データ・AI活用のための技術(2)(担当者：八木) ：様々なデータ可視化の方法やAIの現状について学ぶ。 予習：教科書「1.4 データ・AI活用のための技術(1.4.6~1.4.9)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第6回	<p>データ・AI活用の現場(担当者：八木) ：データ・AIを活用することでどのような価値が生まれ、そのような価値を生むために何に気を付けるべきか、学ぶ。 予習：教科書「1.5 データ・AI活用の現場」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第7回	<p>データ・AI活用の最新動向／「社会におけるデータ・AI活用」のまとめ(担当者：八木) ：AIを活用した新しいビジネスモデルや、AIに関する最新技術について学ぶ。さらに本セクションについて振り返り、セクション課題に取り組む。 予習：教科書「1.6 データ・AI活用の最新動向」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第8回	<p>データを読む(1)(担当者：松尾) ：データの種類、データの代表値とばらつき等の指標について学び、データ収集の際打ち切りや脱落など実際に発生する問題点について学ぶ。 予習：教科書「2.1 データを読む(2.1.1~2.1.6)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第9回	<p>データを読む(2)(担当者：松尾) ：複数のデータの関連性を捉える方法について学ぶ。 予習：教科書「2.1 データを読む(2.1.7~2.1.10)」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第10回	<p>データを説明する(担当者：松尾) ：データをグラフや図を使って分かりやすく表現する方法について、実際のデータ例を見ながら、学修を深める。 予習：教科書「2.2 データを説明する」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分) 復習：授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>

第11回	<p>データを扱う (1)</p> <p>: 統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット (SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、データの集計、並び替えについて学ぶ。</p> <p>予習: 教科書 「2.3 データを扱う」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習: 授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第12回	<p>データを扱う (2) / 「データリテラシー」のまとめ (担当者: 松尾)</p> <p>: 統計センターが公表している統計データ「教育用標準データセット (SSDSE)」や政府統計の総合窓口「e-Stat」等で提供されている統計データを利用して、具体例に基づきながら、ヒストグラムや散布図の描き方を学ぶ。さらに本セクションについて振り返り、セクション課題に取り組む。</p> <p>予習: 別のデータを使って、授業内で行った分析を行い、理解を深める。(100分)</p> <p>復習: 授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第13回	<p>データ・AIを扱う上での留意事項 (担当者: 八木)</p> <p>: AIでデータを扱う場合に留意すべきことやデータを保護するための現行の法制度の考え方について学ぶ。</p> <p>予習: 教科書 「3.1 データ・AIを扱う上での留意事項」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習: 授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>
第14回	<p>データを守る上での留意事項 / 「データ・AI活用における留意事項」のまとめ (担当者: 松尾・八木・山口)</p> <p>: セキュリティ・プライバシーの観点からデータを守る上での留意事項について学ぶ。さらに本セクションについて振り返り、セクション課題に取り組む。</p> <p>予習: 教科書 「3.2 データを守る上での留意事項」を読み、不明な語句や疑問点について調べ、ノートにまとめる。(100分)</p> <p>復習: 授業内で実施した小テストを復習し、不明な点や間違えた所をノートに整理し、理解を深める。(100分)</p>

成績評価方法・基準	<p>毎回の課題 (毎回の授業時に課される小テスト) : 60%</p> <p>平常点 (リアクションペーパー) : 10%</p> <p>セクション課題: 30%</p> <p>を合計して評価する。授業中に行う小テストは、オンラインテストで行い、回答直後に正誤についてフィードバックする。さらに、間違いの多かった箇所について、次回の授業で解説を行う。</p> <p>なお、コロナウィルスの感染状況により、オンライン授業となった場合にも、評価方法・基準に変更はありません。</p>
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教養としてのデータサイエンス	北川源四郎・竹村彰通 (編)	講談社	978-4-06-523809-7	
参考書	松田稔樹・萩生田伸子 (監修) 問題解決のためのデータサイエンス入門 実教出版 岡嶋裕史・吉田雅裕 (共著) 基礎テキスト はじめてのAIリテラシー 技術評論社			
その他	連絡先: 松尾由美 yumatsu@edogawa-u.ac.jp / 八木徹 yagi@edogawa-u.ac.jp / 山口敏和 tyamaguc@edogawa-u.ac.jp			
参考URL				

実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	ディスカッション、ディベート/グループワーク
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)/メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	市村 由起		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	情報リテラシーI/情報リテラシー			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	1群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	情報通信技術を活用したコミュニケーション、情報の収集、分析、表現と情報機器の操作技術を習得する。					
授業の概要	<p>本授業は大学での学びと、幼児保育、教育環境におけるICTの活用を目的としています。大学での学びのツールとして、情報機器の基本操作を身につけ、基礎的なソフトウェアとネットワークの活用技術を習得します。具体的にはMicrosoft OfficeのWord, Excel, Power Pointの操作を学び、Wordによる文書表現、Excelによるデータの集計やグラフ表現、実データを用いて読み、分析する実課題に取り組むための基礎を育みます。Power Pointによる教材作成とプレゼンテーションの実践を行います。</p> <p>デジタルネットワーク社会、ビッグデータとAIの活用における情報倫理を理解し、コミュニケーションに活かすことを学びます。</p> <p>さらに、レポートや論文の執筆に必要な、コンピュータを用いた情報の収集、分析、表現の技術を身につけます。</p> <p>資料配布、課題提示、課題の提出、フィードバックは主にエドクラテスを用いて行います。</p>					
到達目標	<p>「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身に着ける」、「情報を正確にとらえ的確に伝えるコミュニケーション能力を備え」子ども、子育て支援に貢献するために、以下の基礎的知識と技能の獲得を到達目標としています。</p> <p>情報機器とアプリケーションの基本的操作を理解し、目的に応じた操作ができる。 コンピュータネットワークとデータサイエンスの基礎知識と情報倫理を理解し、活用することができる。 レポートの執筆のために的確な情報を収集し、分析、視覚的に表現することができる。 身につけた基礎的技術を活用して、データの読み取りと分析、レポートの作成とプレゼンテーションを実施することができる。 子どもの学びとICT活用の現状を理解し、子どもの発達と理解と支援を目的にさらにICTを活用するための基盤となるコンピュータスキルを身につけている。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>ガイダンス・コンピュータの基本操作と大学ネットワークシステムの使い方 学内システムへの導入：概要と使い方 電子メールのマナーと活用 タイピングの基本知識と練習方法</p> <p>予習：大学配布のPCを準備し、IDとパスワードを確認。PC講習会配布資料を読んでおく。(60分) 復習：授業時間外でIDとパスワードを用いてネットワークに接続し、エドクラテスにアクセスする。e-typing練習。(90分)</p>
第2回	<p>情報モラルとデータ、個人情報の適切な取り扱い ネットワーク、ビッグデータ、AI活用が進む社会の動向と課題 情報社会のモラルと教育機関における個人情報の適切な取り扱い 個人情報の問題の事例研究</p> <p>予習：教科書「情報モラル&情報セキュリティ編」Lesson 1-3 (60分) 復習：事例研究について指示された課題に取り組む。(90分)</p>
第3回	<p>OSとアプリケーションの基本知識と操作 Windows10の基本操作 アプリケーションの種類と目的の理解 インターネットブラウザの利用</p> <p>予習：Windows, Microsoft Officeのアカウント確認。教科書「ウィンドウズ編」を確認。(60分) 復習：Windowsの基本操作を復習する。(90分)</p>
第4回	<p>文書作成 Microsoft Word 1.基礎：基本的な文書作成 文書の作成 文書の形式の理解 ファイルの保存と整理</p> <p>予習：教科書「文書作成編」(Step1)を読み、Wordの基本操作を練習する。(60分) 復習：Wordの基本操作を復習する。教科書の課題(Step2)に再度取り組み、発展課題に挑戦してみる。(90分)</p>
第5回	<p>文章作成 Microsoft Word 2.活用：イメージや表などを活用した文書作成 イメージの挿入 描画 Wordアート 表の作成</p> <p>予習：教科書「文書作成編」(Step3)を読み、Wordの課題を練習する。(60分) 復習：教科書のWord課題(Step3)に再度取り組み、発展課題(エドクラテス配布)に挑戦してみる。(90分)</p>
第6回	<p>文書作成 Microsoft Word 3.応用とまとめ：日本語を用いたレポート、教材文書作成 習得した操作の技術を用いて、日本語のレポート形式の文書を作成する。 ワード実践演習 確認課題</p> <p>予習：教科書「文書作成編」(Step4,5)を読み、Wordの課題を練習する。(60分) 復習：教科書のWord課題(Step5)に再度取り組み、発展課題(エドクラテス配布)に挑戦してみる。(90分)</p>
第7回	<p>ネットワーク上の情報活用とセキュリティ ネットワーク上に潜む危険と対策 データ・AI活用における倫理とセキュリティ デジタル時代の著作権と教育的利用 幼児教育機関におけるICT利用 インターネットと情報検索 データ、AIの活用の事例研究と課題考察 情報検索、著作権と引用の手法ルールを理解した上で、課題の情報検索を行う。著作権法を順守した小レポートにまとめる。</p> <p>予習：「情報モラル&情報セキュリティ編」Step 4-6を確認する。(60分) 復習：事例研究について指示された課題に取り組む。(90分)</p>

第8回	<p>表計算 Microsoft Excel 1：基礎 Excelの基本知識と活用事例 Excelの基本操作、画面操作、ショートカット操作 ブック、シート、セルの操作と概念 データ入力 基礎的な関数の導入</p> <p>予習：教科書 「表計算編」 (Step1-3)を読みExcel操作を練習する。(60分) 復習：教科書 (Step2)課題復習と配布練習問題に取り組む。(90分)</p>
第9回	<p>表計算 Microsoft Excel 3：関数と絶対参照・相対参照 絶対参照、相対参照、複合参照の理解と使い分け 関数の復習と応用</p> <p>予習：教科書 「表計算編」 (Step4)を読みExcel操作を練習する。(60分) 復習：教科書 (Step2-4)課題復習と配布練習問題に取り組む。関数と参照総合課題に取り組む。総合復習。(90分)</p>
第10回	<p>表計算 Microsoft Excel 4：グラフの基本操作とレポートへの活用 基本的なグラフ機能の利用と作成 Wordファイルを用いたレポート文書への活用 まとめ</p> <p>予習：教科書 「表計算編」 (Step6)を読みExcel操作を練習する。(60分) 復習：教科書 (Step6)課題復習と配布練習問題に取り組む。総合復習課題。(90分)</p>
第11回	<p>表計算 Microsoft Excelのまとめ プレゼンテーション演習 Power Point 1 PowerPoint の基本操作 スライド作成の手順</p> <p>予習：教科書 「プレゼンテーション編」 (Step1-4)を読み、PowerPointを開いて練習する。(60分) 復習：課題の構想を練る。(90分)</p>
第12回	<p>プレゼンテーション演習 Power Point 2</p> <p>スライド作成の操作の応用を理解する。プレゼンテーション課題の準備をする。 文字やイメージの入力 アニメーションの効果 プレゼンテーション作成と課題準備</p> <p>予習：教科書「プレゼンテーション編」 (Step4-8)を読み練習する。(60分) 復習：プレゼンテーション課題のためのスライド作成 (90分)</p>
第13回	<p>プレゼンテーション演習 Power Point 3 プレゼンテーション課題作成 PowerPointを利用したデジタル絵本の作成</p> <p>予習：プレゼンテーション発表準備と練習。(60分) 復習：提示された課題を完成させる。(90分)</p>
第14回	<p>第14回プレゼンテーション演習 PowerPoint 4 PowerPointを利用したデジタル絵本プレゼンテーション 相互評価と振り返り</p> <p>予習：プレゼンテーション発表準備と練習。(60分) 復習：相互評価を受け、改善したファイルを作成する。(90分)</p>

成績評価方法・基準	毎回の授業の課題（教科書の例題及びWord,Excelの練習応用課題）の取り組みと提出(50%) 総合課題、確認テスト、発表課題(40%) 平常点(10%)
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 11 / Office 2021対応		FOM出版	978-4-938927-55-4	
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1) / こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	市村 由起		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	情報リテラシーII/情報技能演習I			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	1群	区分（授業形態）	週間授業			
副題	情報機器の操作技術の習得とICTを活用した表現（応用）					
授業の概要	<p>前期「情報リテラシーI」で学習したソフトウェアやネットワークの基本操作を基盤に、応用スキルとICTを用いた教材作成を体験します。大学での学びのツールとして、情報機器の基本操作を身につけ、基礎的なソフトウェアとネットワークの活用技術を習得します。具体的にはMicrosoft Officeアプリケーションを用いて、Excelによるデータの分析と表現、協働課題の取り組みを行います。実データを用いて、実社会で用いられているデータ読み取りと分析課題を体験します。</p> <p>ICTを活用した幼児の理解と支援を視野に入れ、教材作成へのアプリケーションの応用や様々なツールの活用を体験します。課題解決型の授業の体験を通して、どのように子どもの教育環境にデジタル教材を導入することが可能かを考察、応用し、毎回の実習内容をもとに教材を作成します。</p> <p>資料配布、課題提示、課題の提出、フィードバックは主にエドクラテスを用いて行います。</p>					
到達目標	<p>「子どもの成長過程を見据え健全な成長を導くために、必要な知識を身につける」、「情報を正確にとらえ的確に伝えるコミュニケーション能力を備え」子ども、子育て支援に貢献するために、以下の基礎的知識と技能の獲得を到達目標としています。</p> <p>Microsoft Excelの応用操作を身につけ、データ分析に活用する。 実データを読みとり、分析、考察し、グラフなどの視覚的表現を用いてわかりやすく説明することができる。 身につけた基礎的技術を活用して、大学の授業やゼミ、卒業論文などのレポートの作成やプレゼンテーションに活かすことができる。 教育目的の導入プログラミングツールや、動画作成の体験を通して、子どもの成長段階や、教育目的に合った導入方法を考察する。 さらに、実習内容を紹介するための教材を作成する。</p>					

授業内容及び準備学習（予習・復習）の内容	
第1回	<p>ガイダンス・前期の復習と確認</p> <p>学内ネットワークシステムとエドクラテスの活用 表計算 Excel応用1 基本操作の復習とデータ入力 計算式と演算子 ワークシートの操作と集計</p> <p>予習：教科書表計算編（Step2～4）を読み、Excelの基本操作を練習する。(60分) 復習：Excelの基本操作を復習する。復習総合課題に再度取り組み、前期からの復習を行う。(90分)</p>
第2回	<p>表計算 Excel応用2 条件分岐と論理式 条件分岐と論理式 IF関数 複合条件</p> <p>予習：教科書(Step9)を読み、関数の基本操作を練習する。(60分) 復習：授業内配布課題を復習する。総合練習課題に挑戦してみる。(90分)</p>
第3回	<p>表計算 Excel応用3 関数の応用と論理式</p> <p>表示形式と条件付き書式の設定 関数の応用と論理式の復習と確認</p> <p>予習：教科書(Step9)を読み、関数の基本操作を練習する。(60分) 復習：授業内配布課題を復習する。総合練習課題に挑戦してみる。(90分)</p>
第4回	<p>表計算 Excel応用4 グラフ作成の基礎 グラフの機能と多様なグラフ作成</p> <p>予習：教科書(Step12)を読み、グラフ作成の基本操作を練習する。(60分) 復習：教科書（Step12）授業内配布課題を復習する。総合練習課題に挑戦してみる。(90分)</p>
第5回	<p>表計算 Excel応用5 データベースの基礎と実データを用いたエクセル課題</p> <p>データベースの基礎 並べ替え、検索、抽出 統計データの扱いと読みとり1</p> <p>予習：教科書(Step14)を読み、データベースの基本操作を練習する。(60分) 復習：教科書（Step14）授業内配布課題を復習する。総合練習課題に挑戦してみる。(90分)</p>
第6回	<p>表計算 Excel応用6 実データを用いたエクセル課題とエクセルのまとめ</p> <p>統計データの扱いと読みとり2 データの読み取りと解釈 データの視覚的表現と説明</p> <p>予習：教科書（Step14）授業内配布課題を完成させ考察を加える。(60分) 復習：教科書（Step14）授業内配布課題を復習する。総合練習課題に挑戦してみる。(90分)</p>
第7回	<p>プログラミング体験1</p> <p>幼児用のコンピュータソフトの事例研究 コンピュータのプログラムとは？ 実習用ソフトの概要と準備</p> <p>予習：幼児用コンピュータソフトやプログラミング教育の実態を調べる。 復習：実習内容の説明教材を作成する。</p>
第8回	<p>プログラミング体験2</p> <p>スクラッチの基本 インターフェース プログラムの基本構成の理解と作成 プロジェクト作成 スクリプトの作成と実行 座標 簡単な繰り返し 予習：実習用ソフトのインストール 復習：実習内容の説明教材を作成する。</p>

第9回	プログラミング体験3 スクラッチ実習 変数 プロジェクト作成 変数の利用と条件分岐 予習：第7回実習内容完成と確認 復習：実習内容の説明教材を作成する。
第10回	プログラミング体験4 スクラッチ実習 プロジェクトの完成 実習6～8を活用してプロジェクトを完成させよう。 予習：6～8回までの実習内容完成と確認 復習：実習内容の説明教材を作成する。
第11回	動画教材の作成1 動画教材作成の流れ 動画教材作成の方法、アプリケーションの紹介とインストール 教材の構成作成 素材の作成 予習：6～9回の授業の復習で作成したプログラミング実習説明教材を準備する。 復習：教材構成を見直し、修正点があれば修正しておく。
第12回	動画教材作成2 動画教材のスクリプト 素材の作成と編集の基礎 予習：6～9回の授業の復習で作成した説明教材を基にスクリプトを構想する。 復習：動画素材の作成
第13回	動画教材作成3 動画編集の基本と操作 動画教材編集と完成 予習：動画素材を完成させておく 復習：編集の基本操作の復習
第14回	まとめ 動画作成4 動画教材完成と共有 相互評価とふりかえり 予習：動画教材を完成させる 復習：完成させた課題をポートフォリオとして整理する。

成績評価方法・基準	毎回の授業の課題（復習課題を含む）の取り組みと提出(50%) 総合課題、確認テスト、教材作成課題(40%) 平常点(10%)
-----------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
情報リテラシー 総合編 Windows 11 / Office 2021対応		FOM出版	978-4-938927-55-4	
参考書				
その他				
参考URL				

実務経験	あり（実務経験詳細に回数の記載がない場合は、すべての回で実務経験を活用）
実務経験詳細	テレビ局勤務 報道記者 ドキュメンタリー番組制作 ディレクター
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習) / ディスカッション、ディベート / グループワーク / プレゼンテーション
ディプロマ・ポリシーとの関連性	こどもコミュニケーション学科(1) / こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバスに表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	大塚 紫乃(D-1103)、浅川 陽子、旭彩希(D-1102)、蛭原正貴(D-0903)、我謝 美左子(T-0305)、高橋 克(T-0103)、高根沢 紀子(D-0604)、猶原 和子(D-0303)、波多野 和彦(D-0202)、村上 涼(T-0404)、守屋 志保(D-0402)			履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	こどもコミュニケーション論				
学期※2	2022年度後期			学校区分	大学		
科目群	こ3群			区分(授業形態)	集中講義		
副題	「こどもコミュニケーション」に関わる学際的学問を知る						
授業の概要	こどもコミュニケーション学科の教員の各専門に基づき、オムニバス形式で講義を行う。講義を通して、様々な分野の学問や研究を知り、関心を広げ、4年生の卒業研究への意識を高める。 各領域の研究の手法や視点を理解できるように、資料や文献を用いて解説する。そのため、提示された資料や文献は予習として事前に読むことが求められる。対面授業の科目であるが、授業方法の詳細(あるいは、オンラインとなった場合の方法)については、各回の担当教員からアナウンスする。						
到達目標	この科目はメディアコミュニケーション学部のディプロマポリシー「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」、こどもコミュニケーション学科のディプロマポリシー「溢れる情報を「正確にとらえ、的確に伝える」コミュニケーション能力を備え、子ども、家庭、学校、地域社会、職域その他の社会的関係性を踏まえ、相互に協力しつつ地域の子どもの子育て支援に貢献し続けることの大切さを理解している」に関連する。 以下の到達目標が含まれる。 ・「こどもコミュニケーション」に関わる様々な学問に関心を持ち、基礎的知識を身につけている ・「こどもコミュニケーション」に関わる学問を探究し研究する方法について、理解している						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容	
第1回	ガイダンス、授業の進め方の説明、こどもコミュニケーションとは何か、学際的な学問について知る(担当:大塚) 予習:シラバスを読み、知りたいポイントについて挙げる、科書のコラムを中心に目を通し、どのような学問があるか理解する(100分) 復習:教科書のまえがきを読み、理解したことをまとめる。「こどもコミュニケーション」についてどのように考えるか、文章にする(100分)
第2回	民俗学の調査手法を学ぶ(獅子舞調査の実際から調査活動の基本を学ぶ)(担当:高橋) 予習:教科書の獅子舞調査の実際一年に1度の出会いのために一を読み、理解する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする(100分)
第3回	児童文学を研究するためには(文学研究の考え方や手法を学ぶ)(担当:高根沢) 予習:教科書の該当箇所を読み、理解する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする(100分)
第4回	絵本研究への誘い(絵本の歴史や研究の視点などについて学ぶ)(担当:浅川) 予習:教科書の該当箇所を読み、先生への質問を1つ以上考えておく(100分) 復習:授業内容をまとめ、自分が新しく学んだことや疑問に思ったことを加えて800字程度で書く(100分)
第5回	発達心理学を研究するためには(発達心理学の研究の手法とデータの読み取り方を学ぶ)(担当:大塚) 予習:教科書の該当箇所を読み、理解する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする(100分)
第6回	表現者として育つために何が必要か(担当:猶原) 予習:該当するページをよく読み、質問事項などをまとめておく(100分) 復習:授業内容をまとめ、自分の選んだ表現手段を用いた活動についてまとめる(100分)
第7回	子どもと自然との関わりについて研究するためには(領域「環境」とSDGsとのつながりについて研究の動向を学ぶ)(担当:旭) 予習:教科書の該当箇所を読み、分らなかった言葉や疑問に感じたところを整理する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする(100分)
第8回	臨床発達心理学の研究を通して、エビデンスに基づく実践とは何かについて学ぶ。(担当:村上) 予習:教科書の該当箇所を読み、分からない用語については調べておく。さらに、内容の要点を箇条書きにまとめておく(100分) 復習:子どもの育ちを支えることについて、自分の考えを1500字程度にまとめる(100分)
第9回	アナログゴンの活用について(類似の運動例から運動遊びを考える)(担当:蛭原) 予習:教科書の該当箇所を読み、アナログゴンについて理解する(100分) 復習:アナログゴンの活用方法についてまとめる(100分)
第10回	スポーツを科学する(スポーツを客観的に分析し、理解する)(担当:守屋) 予習:教科書の該当箇所を読み、スポーツ科学についての理解を深める(100分) 復習:授業で得られた知識を用いて、自身のスポーツ経験について分析する(100分)
第11回	教育工学を研究するために(教育実践的アプローチを学ぶ)(担当:波多野) 予習:保育者を目指す者として、これまでの「学び」の内容とその位置づけを整理する(100分) 復習:幼保関連の資格取得にかかわる科目の関係を図などを用いて、他者にわかりやすく表現する(100分)
第12回	当事者主体の相談支援(社会福祉学研究者と実践者による共同研究の方法を学ぶ)(担当:我謝) 予習:事前に配布する資料を読み、理解する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする(100分)
第13回	数理・データサイエンス・AIによる社会の変化とデータ・AIを扱う上での留意事項およびデータの保護(担当:大塚) 予習:事前に配布する資料を読み、理解する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする。「こどもコミュニケーション」に活かす方法を考える(100分)
第14回	データとAIの活用領域とデータ・AI活用の最新動向、「こどもコミュニケーション」論のまとめ(担当:大塚) 予習:事前に配布する資料を読み、理解する(100分) 復習:授業内容をまとめ、考えたことを文章にする。「こどもコミュニケーション」に活かす方法を考える(100分)

成績評価方法・基準	授業ごとのレポートや課題、ワークで評価する（100%）。 レポートや課題、ワークでは、それぞれの学問に関する基本的知識が身についているか、それぞれの学問について関心を持ち、探究する方法や研究する方法を理解できているかを問う。
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
探究ーこどもコミュニケーション	探究ーこどもコミュニケーション	北樹出版		
参考書				
その他	授業全般に関する連絡先は大塚：otsuka@edogawa-u.ac.jpまで。 各授業に関することは担当教員に連絡すること。			
参考URL				

実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)／こどもコミュニケーション学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	Zhan Ping(D-1304)		履修開始年次	カリキュラムにより異なります。	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	アルゴリズム/アルゴリズム論/データベース演習II			
学期※2	2022年度前期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	アルゴリズムとデータ構造					
授業の概要	<p>情報処理に必要なアルゴリズムとデータ構造の基本を学ぶ。授業は以下の部分によって構成される：</p> <p>(1) まず、アルゴリズムの基本要素をよりの確・具体的に表現できる</p> <p>(2) 必要な表記法と関数、アルゴリズム効率の評価法について学ぶ</p> <p>(3) いくつかのシンプルなソート(並び替え)アルゴリズムの比較と描線アルゴリズムを通じ、アルゴリズムの理解を深める</p> <p>(4) 数式モデル、容易に解ける問題と効率的なアルゴリズムが見つかりにくい問題を見分け、解決の方向性と方法を紹介する</p> <p>(5) できるだけ例を使い、Pythonなどにより実行する</p> <p>この科目では、資料の配布・提出等にエドクラテスを使用し、オンライン授業実施時はGoogle Meetを使用する。</p>					
到達目標	<p>①基礎のアルゴリズムとデータ構造を理解し、表現できる</p> <p>②アルゴリズムの特徴と効率が理解できる</p> <p>③いくつか代表的なアルゴリズムの特徴が説明できる</p> <p>④代表的な数式モデルを見分け、解決の方向性を見出す</p> <p>この科目は、メディアコミュニケーション学部「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる」および情報文化学科「ICT・言語を媒介とし、地域・国境を越えたコミュニケーションを取ることができる」というディプロマ・ポリシーに関連している。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容	
第1回	<p>授業の流れを特徴、内容の習得度を把握する。各自の習得の割合によって学習プランを立てる</p> <p>予習：エドクラテスの資料を読み、授業の流れと特徴を把握する(100分)</p> <p>復習：授業の内容を理解し、各自の習得度に応じて、不足の知識を調べ、学習計画を立てる(70)。課題評価法を確認する。エドクラテスの課題を完成させる(30分)</p>
第2回	<p>アルゴリズム記述法を通じて、論理的な過不足(曖昧なく、漏れない)表現について学ぶ。一般の「手順」と権威(英文)の原文の表現の比較</p> <p>予習：学術の記述と比較するための準備として、アルゴリズムについて自習する(100分)</p> <p>復習：直感を越え、アルゴリズムの基本構成要素(一部は英文)を理解し、正確に表現する(60)。エドクラテスの課題を完成させる(40)</p>
第3回	<p>アルゴリズムの効率の評価法、最悪の場合の繰り返し回数、Big O</p> <p>予習：線形、対数、指数関数(100分)</p> <p>復習：効率的なアルゴリズムの正確な評価法と意義を理解する(50分)。エドクラテスの課題を完成させる(50分)</p>
第4回	<p>ソート(並び替え)1、最小値法、挿入法、記述法と具体例</p> <p>予習：データ構造とソートアルゴリズム(100分)</p> <p>復習：違うソートアルゴリズムを理解し、具体的に表現できる(50分)。エドクラテスの課題を完成させる(50分)</p>
第5回	<p>ソート2、分割と併合、クイックソート</p> <p>予習：ソートアルゴリズム、対数の特徴(100分)</p> <p>復習：効率の評価関数の中に対数が含まれる経緯を理解する(50分)。エドクラテスの課題を完成させる(50分)</p>
第6回	<p>アルゴリズムの頑健性、(累積エラーを減らす除算なしの)プレゼンハム描線アルゴリズム</p> <p>予習：インデックス記述法と応用(100分)</p> <p>復習：2種類の描線アルゴリズムの特徴を理解し、エドクラテスの課題を完成させる(100分)</p>
第7回	<p>Pythonによる描線アルゴリズムの実装</p> <p>予習：Python習得度を確認する(100分)</p> <p>復習：実装した描線アルゴリズムをPythonによるコーディングし、違うパターンを実行する、エドクラテスの課題に提出する(100分)。</p>
第8回	<p>(大規模解ける)線形モデル、(効率のアルゴリズムが見つかりにくい)整数モデル</p> <p>予習：不等式を含む連立方程式(100分)</p> <p>復習：線形モデリングを識別し、整数モデリングの特徴を理解できること(60)。エドクラテスの課題を完成させる(40)</p>
第9回	<p>Excelソルバーによる線形計画問題を解く演習</p> <p>予習：線形モデリング(100分)</p> <p>復習：Excelソルバーを使い、目的関数と制約式を入力し、求める解を解釈できる(50)。エドクラテスの課題を完成させる(50)</p>
第10回	<p>深さ優先探索とスタックのデータ構造、Pythonのコーディング</p> <p>予習：グラフと隣接、深さ優先探索とは(100分)</p> <p>復習：深さ優先探索とスタックのペアで、アルゴリズムのステップを辿れる(50分)。エドクラテスの課題を完成させる(50分)</p>

第11回	幅優先探索とキューのデータ構造、深さ優先との比較、Pythonのコーディング 予習：グラフと幅優先探索とは（100分） 復習：幅優先探索とキューのペアで、アルゴリズムのステップを辿れる（50分）。エドクラテスの課題を完成させる（50分）
第12回	（総当たり）分枝限定法1、実行可能解（一部のケースをカットする方法）、ナップザック問題 予習：2分木と分枝限定法（100分） 復習：分枝限定法と実行可能解を理解し（50分）、エドクラテスの課題を完成させる（50分）
第13回	（総当たり）分枝限定法2、（解きやすい）緩和問題、最適解とその判断の論理性 予習：最適解問題とその応用（100分） 復習：近似解、最適解を理解する（50分）。エドクラテスの課題を完成させる（50分）
第14回	食事する哲学者の問題、デッドロック、（システム）並列アルゴリズム 予習：食事する哲学者の問題とは（100分） 復習：食事する哲学者の問題の意義を理解する（50分）、エドクラテスの課題を完成させる（50分）

成績評価方法・基準	到達目標の内容の割合の目安：①10% ②20% ③30% ④40% 成績評価方法・基準：毎回の課題が同点、課題の合計が75%；最終試験25% 尚、対面授業がオンライン出席している場合、質疑・自ら課題を取り組む姿勢の把握の制限から、15%~20%を減点する
-----------	---

参考書	アルゴリズムイントロダクション 第3版 第1、2巻: (世界標準MIT教科書)、T.コルメン など, (著), 浅野 哲夫 など (翻訳)、近代科学社、2012年
その他	エドクラテスの資料 質問などの連絡先: zhan@edogawa-u.ac.jp
参考URL	

実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(1)/メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)/情報文化学科(1)/情報文化学科(2)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	山口 敏和(T-0603)、Zhan Ping(D-1304)		履修開始年次	1年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	プログラミング基礎			
学期※2	2022年度後期		学校区分	大学		
科目群	情2群		区分(授業形態)	週間授業		
副題	Pythonプログラミングの基本(データ構造とGUIの活用)					
授業の概要	<p>広く利用されているプログラミング言語Pythonを利用して、プログラミングの基本を学ぶ。Pythonの様々なデータ構造、パッケージ、モジュールを利用して仕組みを理解し、GUIを活用したプログラムを実行し、Webでの活用など様々な活用例について学習する。毎回、短いサンプルプログラムを作りながら学習を進め、演習として課題プログラムを作成し提出する。</p> <p>この科目では、資料の配布・提出等にエドクラテスを使用する。 第1回の授業主担当：山口、第2～8回の授業主担当：Zhan、第9～14回の授業主担当：山口 副担当の教員は机間巡視および質問対応を担当する。 履修人数によっては2クラスに分けて授業回数ごとの内容を一部入れ替えて各教員が1クラスずつを担当することがある。</p> <p>本科目は対面での授業を前提としているが、感染症対策等の理由でオンライン授業を実施する場合には、GoogleMeetを利用する。</p>					
到達目標	<p>①コンピュータ・プログラミングの特徴をつかみ、今後のプログラミングなどの学習の基礎を築く。 ②簡単なPythonのプログラムを作成・実行し、目的に沿った結果が得ることができる。 ③GUIを用いたプログラムを実行することができる。 ④スクリプト言語とコンパイル言語の違いについて理解し説明できる。</p> <p>この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる」というディプロマ・ポリシーに関連し、プログラミングを目的に応じて使い分ける力を身につける。</p>					

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容

第1回	<p>授業概要説明/プログラミングの思考の基礎/順序処理と条件分岐/IDLEを用いた作業方法の確認 予習：Python開発環境の準備をして、Pythonでのプログラミングにおける入出力及び変数について教科書の該当部分(Chapter1～3)を学習しておく(100分)。 復習：この授業の特徴を理解し、自分の習得度を把握した上で、自分に合った学習計画を立てる(70分)。エドクラテスに掲示された動作確認などの演習課題を完成させる(30分)。</p>
第2回	<p>アルゴリズムの基本/プログラムを試しエラーに対処する自分に合った方法を見出す/データの集まり(リスト) 予習：教科書のリストに関する部分(Chapter4 section01)に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：授業で学んだ内容について独自に考える方法に慣れるために、類題を試して動作を確認する(60分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(40分)。</p>
第3回	<p>データの集まり(タプル、辞書、セット)と繰り返し文 予習：教科書のデータ構造(Chapter4 section02～04)と繰り返し文(Chapter5 section03)に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：様々なデータ構造の必要性和特徴を理解し、ノートに簡潔に整理する(60分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(40分)。</p>
第4回	<p>関数の定義・呼び出し・引数・戻り値 予習：教科書の関数に関する部分(Chapter6)に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：関数を再利用する目的を考え、関数の作成と呼び出しについての理解を深める(50分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(50分)。</p>
第5回	<p>再帰構造の特徴と停止条件/スタックのデータ構造と再帰構造の関連 予習：再帰とスタックに関する講義資料(エドクラテス掲示)に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：再帰の意義と特徴を把握するために、自ら例を作り、試す(50分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(50分)。</p>
第6回	<p>クラス(1)：クラスの概要/インスタンスとメソッド 予習：教科書のクラスに関する部分(Chapter7 section01～02)に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：関数とクラスを比較しながら、その違いについて、例をあげて理解を深める(50分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(50分)。</p>
第7回	<p>クラス(2)：クラスの継承/privateとpublic 予習：教科書のクラスに関する部分(Chapter7 section03)に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：クラスの継承の意義を理解して、その利点と欠点を示す例を自ら作成する(50分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(50分)。</p>
第8回	<p>パッケージとモジュール/関数とグラフ描画 予習：教科書のパッケージとモジュールに関する部分(Chapter10)およびエドクラテスに掲示された資料に目を通し、疑問点をノートに整理する(100分)。 復習：興味あるパッケージやライブラリを取り組み、自らのプログラムに応用した例を示す(50分)。エドクラテスに掲示された課題を完成させる(50分)。</p>
第9回	<p>CUIとGUI 予習：エドクラテスに掲示された資料を読み、不明点をノートに整理する(100分)。 復習：エドクラテスに掲示された演習問題に取り組み、プログラムの動作を確認する(100分)。</p>
第10回	<p>CUIを用いた簡易ゲーム制作(リストとrandomモジュールの活用) 予習：エドクラテスに掲示された資料を読み、不明点をノートに整理する(100分)。 復習：エドクラテスに掲示された演習問題に取り組み、プログラムの動作を確認する(100分)。</p>
第11回	<p>GUIの利用(1)：ラベル、ボタン、キャンバス 予習：エドクラテスに掲示された資料を読み、不明点をノートに整理する(100分)。 復習：エドクラテスに掲示された演習問題に取り組み、プログラムの動作を確認する(100分)。</p>
第12回	<p>GUIの利用(2)：図形描画、テキスト入力、チェックボックス/GUIを用いた簡易ゲーム制作【最終課題の提示】 予習：エドクラテスに掲示された資料を読み、不明点をノートに整理する(100分)。 復習：エドクラテスに掲示された演習問題に取り組み(50分)。最終課題の構成を考える(50分)。</p>

第13回	GUI利用のための様々な処理：グローバル変数、リアルタイム処理、キー入力／最終課題のためのプログラム制作【最終課題の提出】 予習：エドクラテスに掲載された資料を読み、不明点をノートに整理する（100分）。 復習：最終課題のプログラム制作に取り組み、完成させる（100分）。
第14回	プログラミングのWebでの活用／多様なプログラミング言語：スクリプト言語とコンパイル言語／今後の学習に向けて：プログラミングの作成に必要な知識・技能 予習：Python以外のプログラミング言語を3つ以上調べ、それぞれの特徴や利用される場面をノートに整理する（100分）。 復習：プログラミング言語の分類とそれぞれの強みをノートに整理する（50分）。自分に合った今後の学習計画を立てる（50分）。

成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> 到達目標①及び④については、授業後のコメントシートにより評価する。（20%） 到達目標②、③のプログラム作成の力については、授業内で提出する課題プログラムで評価する。（50%） コメントシートや提出課題については次回授業にてフィードバックし、補足説明を加える。 到達目標①～④の総合的な理解について、最終課題および定期試験で評価する。（30%） <p>最終課題として、Pythonを用いたオリジナルプログラムを制作し、そのプログラムを説明する資料とともに提出する。 なお、成績評価方法はオンライン授業実施時に変更しない。</p>
-----------	---

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Python [完全] 入門	松浦健一郎/司ゆき	SBクリエイティブ	978-4-815607647	2021年
参考書	『Pythonでつくる ゲーム開発 入門講座』 廣瀬豪、ソーテック社、2019、ISBN 978-4-800712394 『解きながら学ぶ Pythonつみあげトレーニングブック』 リブワークス(著)/株式会社ビーブラウド(監修)、マイナビ出版、2021、ISBN 978-4-839975951 『みんなのPython 第4版』 柴田淳、SBクリエイティブ、2016、ISBN 978-4-797389463			
その他	ノートPCおよびLANケーブルを必ず持参すること。オンライン授業を実施する際にはGoogle Meetを使用する。 一部の回で使用する資料は参考URLからダウンロードする。適宜エドクラテスにして指示するので、掲示をよく確認すること。 「プログラミング概論」の授業を履修済みか、同程度の知識と実習経験を必要とする。 連絡先 ・ 山口： tyamaguc@edogawa-u.ac.jp ・ Zhan： zhan@edogawa-u.ac.jp			
参考URL	Zhan Ping担当分資料 https://www1.edogawa-u.ac.jp/~zhan/Lecture/Python/python.html			

実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	PBL(課題解決型学習)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

教員名	小原 裕二(D-0705)、松尾由美 (T-0504)			履修開始年次	2年	単位※1	2単位
年度	2022年度	科目名	データベースI/データベース演習/データベース演習I				
学期※2	2022年度前期			学校区分	大学		
科目群	情2群			区分(授業形態)	週間授業		
副題	Accessでデータベースの基本操作を学ぶ						
授業の概要	近年、「ビッグデータ」という言葉が社会全般におけるキーワードとして取り上げられる機会が増えてきている。この大量のデータを効率よく保存して利用するためには、データ管理に特化したデータベースの活用が重要になっている。データベースを活用するうえで必要となる基礎的な知識について学び、データベースを操作できるようになることを目標とする。 この科目では、資料の配布等ではエドクラテスを使用し、オンライン授業実施時の動画についてはGoogle Meetを使用する。						
到達目標	この科目は、メディアコミュニケーション学部の「教養としての基礎知識及び専攻する学問分野における基礎的・専門的知識を身につけている。」及び「コンピュータや情報環境を様々な活動に活用することができる。」というディプロマ・ポリシーに関連し、以下の3つを修得することを目標とする。 1. データベース及びデータベース管理システム(DBMS)の意義、目的、考え方について理解し、説明できるようになる。 2. データの分析・設計の考え方、データベースのモデルの特徴を理解する。 3. データベースの操作方法を理解し、簡単なデータを抽出できるようになる。						

授業内容及び準備学習(予習・復習)の内容	
第1回	ガイダンス(社会におけるデータベースの活用) 予習: データベースとは何か、データベースの役割、データベースが活用されている事例について調べておく。(100分程度) 復習: データベースの利活用・役割について説明できる。(100分程度)
第2回	データベースの作成 予習: データベースの作成方法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第3回	テーブルの作成 予習: テーブルの作成方法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第4回	クエリの作成と操作(1) データの抽出 予習: クエリを使用したデータ抽出の手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第5回	クエリの作成と操作(2) データのグループ化、集計 予習: クエリを使用したデータのグループ化、集計の手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第6回	テーブルの操作 予習: テーブルの操作手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第7回	フォームの作成と操作 予習: フォームの作成と操作手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第8回	リレーションシップの作成 予習: リレーションシップの作成と操作手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第9回	データの正規化 予習: 第1正規化、第2正規化、第3正規化の手順について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第10回	レポートの作成と操作 予習: レポートの作成と操作手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第11回	データベースの管理 予習: データベースの管理について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第12回	Accessの演習 予習: Accessの操作手法について調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第13回	SQLの基礎 予習: SQLについて調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)
第14回	データベース管理システム 予習: データベース管理システムについて調べる。また、不明な語句や疑問点などについて調べノートにまとめる。(100分程度) 復習: 授業内容をノートにまとめる。確認テストで不明な点を、参考書などを参照しまとめる。(100分程度)

成績評価方法・基準	<p>【対面時の評価方法】 データベース及びデータベース管理システム (DBMS)の意義、目的、考え方について理解を問う毎回授業で行う小テスト等による平常点 (20%)、学習意欲 (10%) (課題への取り組み姿勢を評価する)、データの分析・設計の考え方、データベースのモデルの特徴を理解し、データベースの操作方法に関する総合的な理解を問う定期試験 (70%)を合計して評価する。</p> <p>【オンライン授業での評価方法】 データベース及びデータベース管理システム (DBMS)の意義、目的、考え方について理解を問う毎回授業で行う小テスト等30%、データの分析・設計の考え方、データベースのモデルの特徴を理解し、データベースの操作方法に関する総合的な理解を問うオンラインテスト70%を合計して評価する。</p>
-----------	---

参考書	1.書名：MOS Access 365&2019 Expert 対策テキスト&問題集 (よくわかるマスター)、著者名：富士通ラーニングメディア、出版社：FOM出版、出版年：2021、ISBN：978-4938927325
その他	原則、十分に充電した【ノートPC】を持参してください。 授業中に更新プログラムやアップデートが行われないように事前に更新を行っておくこと。 質問等はエドクラテスに記載してあるメールアドレスに連絡すること。
参考URL	

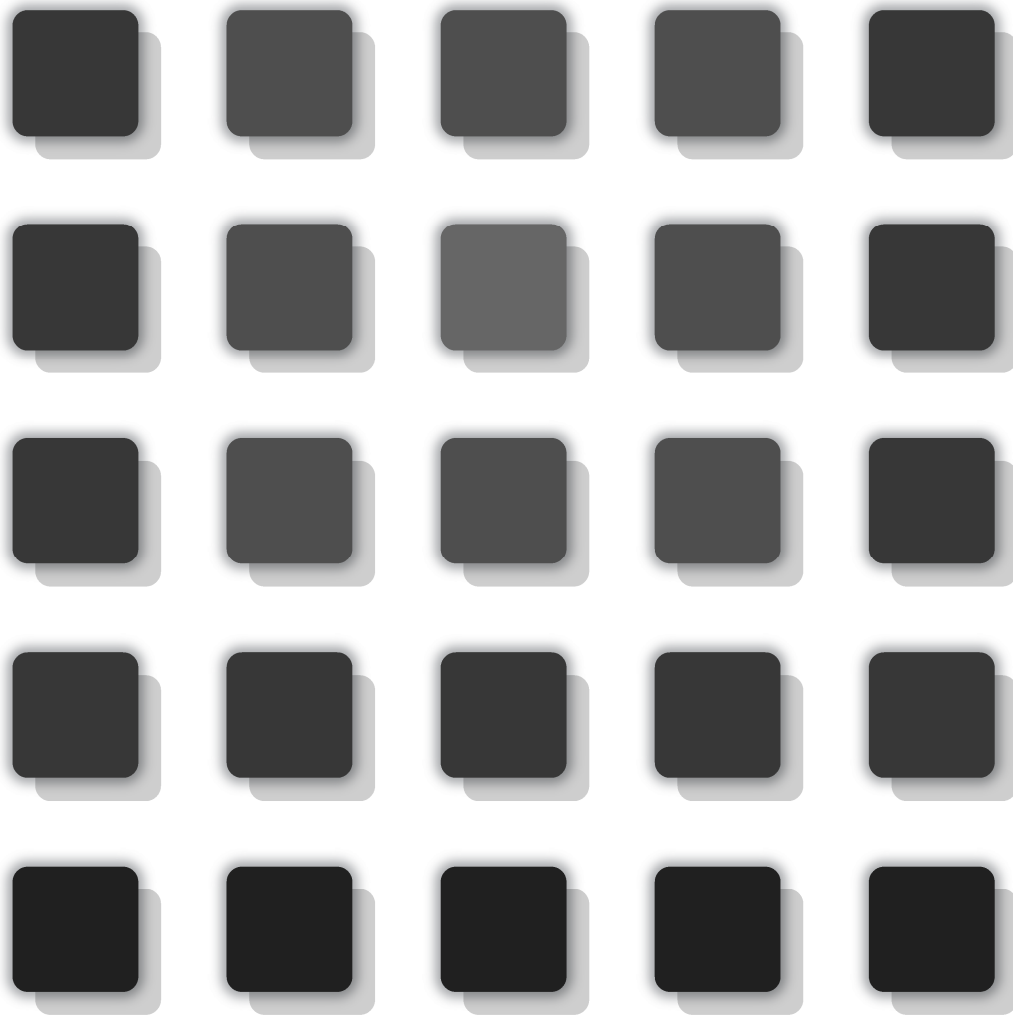
実務経験	
実務経験詳細	
学生を主体とする教育方法の実践	反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ディプロマ・ポリシーとの関連性	メディアコミュニケーション学部(2)/メディアコミュニケーション学部(4)

※1 最新カリキュラムにおける単位数が表示されますので、入学年度により実際の単位数とシラバス上に表示される単位数が異なる場合があります。学生便覧等で単位数を確認してください。

※2 前期・後期の両方が記載されている場合は、通年科目となります。

科目履修マニュアル

2022



EDOGAWA UNIVERSITY

④日本語系科目（外国人留学生のみ）

- ・2021年度以前の外国人留学生は「日本語Ⅰ～Ⅷ」から8単位を選択し、修得しなければなりません。
- ・2022年度以降入学の外国人留学生は、必修科目「日本語基礎Ⅰ・Ⅱ」「日本語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」「日本語応用Ⅰ・Ⅱ」の8単位の修得が義務づけられています。これら科目および「日本語文型Ⅰ・Ⅱ」「日本語アカデミック基礎Ⅰ・Ⅱ」「日本語アカデミック応用Ⅰ・Ⅱ」「日本語キャリアデザインⅠ・Ⅱ」は外国人留学生のみ履修可能な科目です。日本語系科目は、外国人留学生以外の学生は履修できないので注意してください。
- ・必ず基礎ゼミの先生と相談の上、履修する科目を決めてください。
- ・履修科目の選び方や登録の方法については、留学生ポータルサイト「留学生サポート」の「日本語学習」にある「日本語科目履修登録」ページを確認してください。EDO-NETのアカウントでGoogleにログインした状態で、大学公式ウェブサイトの「国際交流」の「外国人留学生サポート」の一番下にある「留学生ポータルサイト」をクリックすると、「留学生サポート」にアクセスできます。

⑤基幹科目群（こどもコミュニケーション学科を除く）

- ・2016年度入学者は、基幹科目群の中から16単位以上の修得が義務づけられています。16単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。
- ・2017年度入学者は、基幹科目群の中から22単位以上の修得が義務づけられています。22単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。
- ・2018年度以降入学者は、基幹科目群の中から20単位以上の修得が義務づけられています。20単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。

⑥教養科目系（2022年度以降入学者・こどもコミュニケーション学科を除く）

2022年度以降入学者は、教養科目系の中から4単位以上の修得が義務づけられています。

⑦選択必修科目（現代社会学科 2018年度以降入学者、経営社会学科 2022年度以降入学者、

マス・コミュニケーション学科 2020年度以降入学者）

現代社会学科、経営社会学科、マス・コミュニケーション学科 2群・3群科目に選択必修科目が設定されており、現代社会学科は8単位以上、経営社会学科はベーシック選択必修科目から8単位以上、専門選択必修科目から6単位以上、マス・コミュニケーション学科は2群科目から10単位以上、3群科目から6単位以上の修得が義務づけられています。それぞれ必要単位を超えて修得した場合、超過分の単位は選択科目として計算されます。

⑧選択科目

選択科目は、学生が自由に選択し、履修することのできる科目です。他学部・他学科選択科目の単位も選択科目の単位に含まれます。必要単位数は入学年度・学科により異なります。卒業要件の単位数をすべて含め、合計128単位以上（自由科目の単位は除く）となるよう選択科目の単位を修得してください。

⑨他学科選択科目（こどもコミュニケーション学科を除く）

他学部・他学科の1群・2群科目のうち、自分の学科で開講されていない選択科目を他学科選択科目といいます。他学科選択科目は単位互換科目と合わせて**在学中に40単位**（人間心理学科の学生は20単位、経営社会学科の2019～2020年度入学者は30単位、経営社会学科の2021年度以降入学者は24単位）の履修が上限となります。他学科選択科目を履修する際は、「他学科選択科目履修申請書」により、担当教員の許可を得てください。許可印をもらった申請書は各自保管してください。

また、他学科の3群科目は履修できませんので注意してください。

⑩自由科目（こどもコミュニケーション学科を除く）

自由科目は、資格科目などに配当されており、卒業及び進級に必要な単位数には含まれない科目をいいます。したがって、単位計算を行うときは注意を要します。キャップ制（※）の履修単位の上限値には加算されません。

※キャップ制とは、学生の学修時間確保を目的として、履修できる単位数に上限を設ける制度のことです。

詳細はP.157を参照してください。

別表第2 メディアコミュニケーション学部 情報文化学科(2022年度入学生)

群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
1群	基礎学力系	アカデミック・スキル演習I	1	4			※注1
		アカデミック・スキル演習II	2	4			
		情報リテラシー	1	2		2	※注2
	英語系	情報リテラシー応用	1	2			※注3
		英語I	1	2			
		英語II	1	2			
		英語III	2	2			
		英語IV	2	2			
		英会話I	1	2			
		英会話II	1	2			
インテンシブ英語A-I(TOEIC)		1	4				
インテンシブ英語A-II(TOEIC)		1	4				
インテンシブ英語A-III(TOEIC)		1	4				
英語系(GSP)	インテンシブ英語A-IV(TOEIC)	1	4				
	海外研修英語I	1	2				
	海外研修英語II	1	2				
	語学研修(オセアニア)	1	4				
	語学研修(欧米)	1	4				
	Intensive English B-I(TOEFL)	1	4				
	Intensive English B-II(TOEFL)	1	4				
	English for Academic Purposes (Writing)	1	2				
	English for Academic Purposes (Presentation)	2	2				
	English Conversation I	2	2				
英語系(GSP)	English Conversation II	2	2				
	English Conversation III	3	2				
	Academic Reading I	1	2				
	Academic Reading II	2	2				
	Academic Reading III	2	2				
	Academic Reading IV	3	2				
	Study Abroad Preparation Seminar	2	2				
	Study Abroad Program	3	8				
	Study Abroad Program - Introduction	1		2			
	Study Abroad Program - Wrap Up	3		2			
日本語系	日本語基礎I	1	1				
	日本語基礎II	1	1				
	日本語コミュニケーションI	1	1				
	日本語コミュニケーションII	1	1				
	日本語応用I	2	2				
	日本語応用II	2	2				
	日本語文型I	1	2				
	日本語文型II	1	2				
	日本語アカデミック基礎I	1	2				
	日本語アカデミック基礎II	1	2				
日本語系	日本語アカデミック応用I	3	2				
	日本語アカデミック応用II	3	2				
	日本語キャリアデザインI	3	2				
	日本語キャリアデザインII	3	2				
	法学概論	1	2				
	経済学概論	1	2				
	政治学概論	1	2				
	人文地理学概論	1	2				
	自然地理学概論	1	2				
	哲学概論	1	2				
教養科目系	日本史学概論	1	2				
	外国史学概論	1	2				
	社会学概論I	1	2				
	社会学概論II	1	2				
	自然科学概論	1	2				
	生物学概論	1	2				
	日本思想概論	1	2				
	科学史概論	1	2				
	日本国憲法	1	2				
	国際社会と日本	1	2				
教養科目系	社会統計学I	2	2				
	社会統計学II	2	2				
	社会調査法I	1	2				
	社会調査法II	1	2				
	社会調査演習	2	4				
	韓国語I	1	2				
	韓国語II	1	2				
	中国語I	1	2				
	中国語II	1	2				
	フランス語I	1	2				
教養科目系	フランス語II	1	2				
	異文化コミュニケーション	2	2				
	多文化理解	1	2				
	アジア・オセアニアの文化	1	2				
	異文化理解研修	1	4				
	スカラシップ	1		6			
	海外体験研修(東南アジア)	1	2				
	海外体験研修(東アジア)	1	2				
	長期海外研修(オセアニア)	1		12			
	長期海外研修(欧米)	1		12			
教養科目系	情報社会とメディア	1	2				
	情報基礎演習	1	2				
	情報活用論基礎	1	2				
	情報活用論応用	1	2				
	情報活用演習	1		2			
	自由単位を 除き、 基幹科目系から 20単位以上 修得						
	自由単位を 除き、 教養科目系 から4単位 以上 修得						

群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
人間力向上科目群	基礎学力系	健康・スポーツ科学	1	2			
		健康・スポーツ科学演習	1	4			
		地域ボランティアプログラムA	1	2			
		地域ボランティアプログラムB	2	2			
		地域ボランティアプログラムC	3	2			
		文学基礎論I	2	2			
		文学基礎論II	2	2			
		人間学演習I	1	2			
		人間学演習II	1	2			
		国語表現I	1	2			
キャリア系	キャリア系	国語表現II	1	2			
		キャリアデザイン・基礎	1	4			
		キャリアデザイン・応用I	2	2			
		キャリアデザイン・応用II	2	2			
		キャリアデザイン・総合I	3	2			
		キャリアデザイン・総合II	3	2			
		インターンシップ	2	2			
		教師論	1	2			
		教育制度論	1	2			
		教育心理学	1	2			
就職・資格科目群	就職・資格科目群	特別支援教育概論(中・高)	1	2			
		教育課程論	2	2			
		教育方法学	2	2			
		教育ICT活用論	2	2	2		
		社会科・公民科教育法I	3	2			
		社会科・公民科教育法II	3	2			
		社会科教育法I	2	2			
		社会科教育法II	2	2			
		英語科教育法I	2	2			
		英語科教育法II	2	2			
教職・学芸員資格系	教職・学芸員資格系	英語科教育法III	3	2			
		英語科教育法IV	3	2			
		情報科教育法I	3	2			
		情報科教育法II	3	2			
		国語科教育法I	2	2			
		国語科教育法II	2	2			
		国語科教育法III	3	2			
		国語科教育法IV	3	2			
		道徳教育の指導法	2	2			
		総合的な学習の時間の指導法	3	2			
教職・学芸員資格系	教職・学芸員資格系	特別活動論	3	2			
		生徒指導論	2	2			
		教育相談	3	2			
		進路指導論	3	2			
		ボランティア論	3	2			
		教職基礎演習	2	2			
		教職総合演習	3	2			
		教職実践演習(中・高)	4	2			
		古典文学鑑賞	1	2			
		現代文学鑑賞	1	2			
教職・学芸員資格系	教職・学芸員資格系	日本文学史	1	2			
		文学総合演習	2	2			
		古典文学講読	2	2			
		漢文	1	2			
		書道	1	2			
		教育実習(事前・事後指導)	4	1			
		教育実習I	4	2			
		教育実習II	4	2			
		教育学概論	1	2			
		博物館経営論	1	2			
教職・学芸員資格系	教職・学芸員資格系	博物館資料論	1	2			
		博物館資料保存論	1	2			
		博物館展示論	1	2			
		博物館情報・メディア論	1	2			
		博物館教育論	1	2			
		博物館学実習I	2	2			
		博物館学実習II	3	2			
		博物館概論	1	2			
		生涯学習論I	1	2			
		生涯学習論II	1	2			

卒業所要単位：必修36単位、選択92単位以上(英語系・英語系(GSP)4単位以上、教養科目系4単位以上、基幹科目群20単位以上(必修8単位、英語系・英語系(GSP)4単位以上、教養科目系4単位以上を含む)を含む)、合計128単位以上
 外国人留学生は、必修40単位、選択88単位以上(教養科目系4単位以上、基幹科目群20単位以上(必修12単位、教養科目系4単位以上を含む)を含む)、合計128単位以上
 自由科目の単位は卒業単位には含まれないので注意すること
 ※注1 外国人留学生は「アカデミック・スキル演習I」及び「アカデミック・スキル演習II」は履修不可、「情報リテラシー」及び「情報リテラシー応用」の単位を必修とする
 ※注2 外国人留学生以外は自由科目、外国人留学生は必修科目として扱う

※注3 外国人留学生のみ履修可、必修科目として扱う

※注4 英語系・英語系(GSP)から4単位以上を修得すること(外国人留学生を除く)

※注5 外国人留学生のみ履修可

群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
2 群		言語と文化	1	2			
		比較文化論	1	2			
		英語文学	2	2			
		英語学概論	2	2			
		Global Communication	2	2			
		異文化理解	2	2			
		English Communication I	1	2			
		English Communication II	1	2			
		Reading I	2	2			
		Reading II	2	2			
		Listening & Speaking I	2	2			
		Listening & Speaking II	2	2			
		英語音声学	2	2			
		Writing & Presentation I	2	2			
		Writing & Presentation II	2	2			
		情報社会と法	1	2			
		知的財産権	1	2			
		情報社会と職業	2	2			
		データサイエンス概論	1	2			
		データベースI	2	2			
		データベースII	2	2			
		統計学概論	2	2			
		データ処理応用	3	2			
		データサイエンス応用	3	2			
		情報社会と経済	1	2			
		ロジクスとERP	2	2			
		e-マーケティング	2	2			
		e-ビジネス	2	2			
		ネットワークと社会	2	2			
		e-コマースシステム	2	2			
		マルチメディア	1	2			
		Webデザイン	1	2			
		Webサイト制作	2	2			
		Webアプリ開発	2	2			
		Webサービス開発	3	2			
		グラフィックデザインI	1	2			
		グラフィックデザインII	1	2			
		アニメーション制作	2	2			
		コンピュータグラフィックス	2	2			
		3DCG制作	2	2			
		情報処理概論	1	2			
		情報ネットワーク	2	2			
		情報ネットワーク演習	2	2			
		情報セキュリティ	2	2			
		プログラミング概論	1	2			
		プログラミング基礎	1	2			
		プログラミングI	2	2			
		プログラミングII	2	2			
		プログラミングIII	3	2			
		プログラミングIV	3	2			
	ロジカルシンキング	1	2				
	アルゴリズム	2	2				
	システム設計	3	2				

群	系列	科目名	年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
3 群		英語演習I	1	2			
		英語演習II	1	2			
		総合英語I	2		2		
		総合英語II	2		2		
		情報文化キャリア英語	2		2		
		Project-based Presentation	3		2		
		情報処理入門	1		2		
		情報コミュニケーション論	1	2			
		情報処理応用	2		2		
		ICT活用演習	1		2		
		データ処理基礎	1		2		
		システム開発プロジェクト	3		2		
		情報文化キャリア特講(初級)	1		2		★
		情報文化キャリアI	2		2		
		情報文化キャリアII	2		2		
		情報文化キャリア特講(上級)	2		2		★
		情報社会と文化	2	2			
		情報文化キャリア総合	3	2			★
		基礎ゼミナール	1	2			★
		情報文化基礎	1	2			★
	情報文化演習	2	4				
	情報文化実習	2	2				
	専門ゼミナール	3	4				
	卒業研究	4	4				

★印の科目はコロナ禍後もオンライン授業を継続する可能性のあるオンライン指定科目です。
 オンライン指定科目であっても対面のみで開講する科目があります。
 他学科の学生は、2群、3群のオンライン指定科目を履修できません。

別表第2 メディアコミュニケーション学部 子どもコミュニケーション学科(2022年度入学生)

群	系列	科目名	年次	単位数			備考		
				必修	選択	自由			
1群	英語系	英語I	1	2					
		英語II	1	2					
		英語III	2	2					
		英語IV	2	2					
		海外研修英語I	1	2					
		海外研修英語II	1	2					
		英会話I	1	2					
		英会話II	1	2					
		基幹科目群	情報リテラシー系	情報リテラシーI	1	2			
				情報リテラシーII	1	2			
	ことばと表現(書きことば)			1	2				
	ことばと表現(話しことば)			1	2				
	社会学概論I			1	2				
	社会学概論II			1	2				
	法学概論			1	2				
	経済学概論			1	2				
	政治学概論			1	2				
	人文地理学概論			1	2				
	教養科目系		自然科学概論	1	2				
			生物学概論	1	2				
			哲学概論	1	2				
			日本史学概論	1	2				
			外国史学概論	1	2				
			自然地理学概論	1	2				
			日本思想概論	1	2				
			科学史概論	1	2				
			日本国憲法	1	2				
			国際社会と日本	1	2				
	人間力向上科目群	地域連携系	地域ボランティアプログラムA	1	2				
			地域ボランティアプログラムB	2	2				
			地域ボランティアプログラムC	3	2				
		文学系	文学基礎論I	2	2				
			文学基礎論II	2	2				
			国語表現I	1	2				
			国語表現II	1	2				
			古典文学鑑賞	1	2				
			現代文学鑑賞	1	2				
			日本文学史	1	2				
			文学総合演習	2	2				
			古典文学講読	2	2				
			人間学演習I	1	2				
			人間学演習II	1	2				
			キャリア系	キャリアデザイン・基礎	1	4			★
	キャリアデザイン・応用I	2		2					
	キャリアデザイン・応用II	2		2					
キャリアデザイン・総合I	3	2							
キャリアデザイン・総合II	3	2							
インターンシップ	2	2							

卒業所要単位:必修79単位、選択49単位以上(選択必修10単位以上(必修2単位を含む)を含む)、合計128単位以上

★印の科目はコロナ禍後もオンライン授業を継続する可能性のあるオンライン指定科目でオンライン指定科目であっても対面のみで開講する科目があります。他学科の学生は、2群、3群のオンライン指定科目を履修できません。

群	系列	科目名	年次	単位数			備考	
				必修	選択	自由		
1群	メディア系	メディア活用論I	1	2			★	
		メディア活用論II	2	2				
		こども教材開発論	3	2				
		こども教材開発演習	3	2				
	コミュニケーション系	コミュニケーションの心理学	2	2			10必修単位以上修得	
		こどもと読み聞かせ・児童文学	2	2				
		こどもと読み聞かせ・絵本	2	2				
		こどもと読み聞かせ・メディア	3	2				
		こどもと文学	3	2				
		こども文学創作演習	3	2				
	フィールドワーク系	生涯学習論	3	2				
		グループ体験	2	2				
		環境と教育	2	2				
		社会調査法I	3	2				
		社会調査法II	3	2				
		社会調査演習	3	2				
	2群	こども理解基礎科目群	保育原理	1	2			★ ★ ★
			教育学概論(初等)	1	2			
			教育制度論(初等)	1	2			
			子ども家庭福祉	2	2			
社会福祉			1	2				
子育て支援			2	1				
社会的養護I			2	2				
保育者論			1	2				
保育の心理学			1	2				
子ども家庭支援の心理学			1	2				
実践支援科目群		幼児理解	3	1				
		子どもの保健	2	4				
		子どもの健康と安全	3	1				
		子どもの食と栄養	3	2				
		子ども家庭支援論	3	2				
3群	実践支援科目群	教育・保育課程論	2	2			★	
		幼児と健康	2	2				
		幼児と人間関係	2	2				
		幼児と環境	2	2				
		幼児と言葉	2	2				
		幼児と表現	2	2				
		保育内容総論	2	1				
		健康の指導法	2	1				
		人間関係の指導法	2	1				
		環境の指導法	2	1				
	言葉の指導法	2	1					
	表現の指導法	2	1					
	教育方法学(初等)	2	2					
	乳児保育I	3	2					
	乳児保育II	3	1					
特別支援教育概論(初等)	3	2						
社会的養護II	3	1						
教育相談支援	3	2						
実技科目群	身体表現の技術	2	2					
	声楽表現の技術A	1	2					
	声楽表現の技術B	2	2					
	器楽表現の技術A	1	2					
	器楽表現の技術B	2	2					
	造形表現の技術A	1	2					
	造形表現の技術B	2	2					
	絵画表現の技術A	1	2					
	絵画表現の技術B	2	2					
	言語表現の技術	2	2					
総合表現演習	3	2						
実習	保育実習IA	3	2					
	保育実習IB	3	2					
	保育実習指導IA	3	1					
	保育実習指導IB	3	1					
	保育実習II	3	2					
	保育実習指導II	3	1					
	保育実習III	3	2					
	保育実習指導III	3	1					
	教育実習(幼稚園)	4	4					
	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	4	2					
実践演習	教育・保育実践演習	4	2					
3群	基礎ゼミナール	1	2					
	こどもコミュニケーション基礎	1	2					
	こどもコミュニケーション論	1	2					
	こどもコミュニケーション演習	2	2					
	こどもコミュニケーション実習	2	1					
	学校インターンシップ実習I	1	2					
	学校インターンシップ実習II	2	2					
	専門ゼミナール	3	4					
卒業研究	4	4						

<履修登録における注意事項>

◆キャップ制

学生の学修時間確保を目的とし、履修できる単位数に上限を設ける制度のことで、

キャップ制をオーバーして履修登録した場合、超過分の科目は削除されます。

1年次～4年次の前期・後期各 26 単位以下、かつ年間 49 単位以下（通年科目は前期と後期に半分ずつ単位を分割して計算）

前期に 26 単位履修登録した場合、後期は 23 単位以下しか履修登録できません。前期、後期それぞれ 24 単位程度を目安に、バランス良く履修してください。3 年次終了時点で自由科目を除く修得単位が 80 単位に満たないような場合、キャップ制の制限により 4 年間では卒業できなくなります。

なお、前年度修得単位数が 48 単位以上あり、すべて評価が「秀」で、かつ学科が許可をする学生について、キャップ制に年間 3 単位を加算し、前期・後期各 26 単位以下、かつ年間 52 単位以下の履修を可能とします。

希望者は履修登録期間中に教務課窓口にて申請してください。

<キャップ制対象外科目一覧>

科目区分	科目詳細
自由科目	時間割等確認のこと。
集中講義科目	時間割等確認のこと。
教職課程の指定科目	教師論、教育制度論、教育心理学、教育課程論、教育方法学、特別支援教育概論（中・高） 保育者論、教育制度論（初等）、保育の心理学、 保育課程論（2019 年度以降入学生は教育・保育課程論）、教育方法学（初等）
海外研修科目 ※2	<2017 年度以前入学生> ニュージーランド研修 I ※1、ニュージーランド研修 II、ニュージーランドスカラシップ、 長期海外研修 <2018 年度以降入学生> 海外体験研修、海外体験研修（中国）、異文化理解研修※1、語学研修（オセアニア）、 語学研修（欧米）、スカラシップ、長期海外研修（オセアニア）、長期海外研修（欧米）、 Study Abroad Program（2020 年度以降入学生のみ）
海外研修に係る 英語科目	<2019 年度以前入学生> ニュージーランド研修英語、Step-Up English <2020 年度以降入学生> 海外研修英語 I ※3、海外研修英語 II ※3

※1 2021 年度以前入学のこどもコミュニケーション学科では、科目名が「異文化理解研修」「ニュージーランド研修 I」ではなく、「海外こども事情体験 A（ニュージーランド）」となります。

※2 海外研修科目については、履修取消上限の 4 科目制限に含まれません。

※3 2021 年度以前入学のこどもコミュニケーション学科では科目名が「海外研修英語 I」「海外研修英語 II」ではなく「ニュージーランド研修英語」「Step-Up English」となります。

◆他学科選択科目

他学部・他学科（こどもコミュニケーション学科を除く）の 1 群・2 群科目のうち、自分の学科で開講されていない選択科目を在学中に単位互換科目と合わせて 40 単位の履修が上限となります。（人間心理学科の学生は 20 単位まで、経営社会学科の 2019～2020 年度入学生は 30 単位、経営社会学科の 2021 年度以降入学生は 24 単位まで）履修できます。

他学科選択科目を履修する際は、「他学科選択科目履修申請書」により担当教員の許可を得てください。許可印をもらった申請書は各自保管してください。

◆クラス編成が決まっている科目

クラス編成が決められている科目は、担当教員別の登録となります。エドポタや掲示案内を確認し、指定された自分のクラスを間違えないように注意してください。

江戸川大学情報教育研究所規程

平成19年4月1日制定

(設置)

第1条 情報に関する教育研究及び情報環境の整備等に資するため、情報教育研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(事業)

第2条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

- (1) 情報に係る教育研究及び教材開発に関すること
- (2) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

(構成)

第3条 研究所は、次の教員で構成する。

- (1) 所長
- (2) 研究所併任教員
- (3) 客員教授
- (4) 客員研究員

(運営委員会)

第4条 研究所の円滑な運営を図るため、運営方針及び事業計画を審議する運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者を持って組織する。

- (1) 所長
- (2) 前条第2号の教員
- (3) その他所長が必要と認めた者 若干名

(所長)

第5条 研究所に所長を置く。所長は、研究所の業務を統括し、委員会の委員長となる。

2 所長は、学長が委嘱する。

3 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 所長が任期の途中で欠けたとき、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員の任期)

第6条 第4条第2項第2号及び第3号の委員の任期は2年とし、欠員補充による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第7条 研究所及び委員会に関する庶務は、学術情報課が行なう。

(雑則)

第8条 委員会の議事運営に関し、必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 11 月 1 日から施行する。

附 則【情報研究所から情報教育研究所に改称】

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

江戸川大学 情報教育研究所
データサイエンス・AI 教育推進室に関する内規

令和4年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、江戸川大学情報教育研究所データサイエンス・AI 教育推進室（以下「推進室」という）の運営及び点検に関する事項について定める。

(目的)

第2条 推進室は、本学におけるデータサイエンス・AI の活用を通して、Society5.0 に向けた文理融合人材の育成に貢献することを目的とする。

(推進に関する活動内容)

第3条 推進室は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) データサイエンス・AI の学修に必要なカリキュラムの研究・開発
- (2) データサイエンス・AI の学修に必要な教材の研究・開発
- (3) データサイエンス・AI の教育に必要な指導法の研究・開発
- (4) データサイエンス・AI に関わる学修データの調査・分析
- (5) 履修案内を含む学内外広報
- (6) FD/SD 研修会での活動報告
- (7) 他大学、研究機関、研究者との交流
- (8) その他、目的達成に必要な活動

(自己点検・評価に関する活動内容)

第4条 推進室には自己点検・評価部会を設置し、次に掲げる事項について点検及び評価を行う。

- (1) データサイエンス・AI 教育に関する授業内容について
- (2) データサイエンス・AI 教育の推進について
- (3) その他、データサイエンス・AI 教育の質の向上に関する事項について

(推進室運営組織)

第5条 推進室は、情報教育研究所員がその任に当たる。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、情報教育研究所運営委員会の議を経て、情報教育研究所長が行う。

江戸川大学情報教育研究所規程

平成19年4月1日制定

(設置)

第1条 情報に関する教育研究及び情報環境の整備等に資するため、情報教育研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(事業)

第2条 研究所は、前条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

- (1) 情報に係る教育研究及び教材開発に関すること
- (2) その他研究所の目的を達成するために必要な事業

(構成)

第3条 研究所は、次の教員で構成する。

- (1) 所長
- (2) 研究所併任教員
- (3) 客員教授
- (4) 客員研究員

(運営委員会)

第4条 研究所の円滑な運営を図るため、運営方針及び事業計画を審議する運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次に掲げる者を持って組織する。

- (1) 所長
- (2) 前条第2号の教員
- (3) その他所長が必要と認めた者 若干名

(所長)

第5条 研究所に所長を置く。所長は、研究所の業務を統括し、委員会の委員長となる。

2 所長は、学長が委嘱する。

3 所長の任期は2年とし、再任を妨げない。

4 所長が任期の途中で欠けたとき、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員の任期)

第6条 第4条第2項第2号及び第3号の委員の任期は2年とし、欠員補充による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(庶務)

第7条 研究所及び委員会に関する庶務は、学術情報課が行なう。

(雑則)

第8条 委員会の議事運営に関し、必要な事項は委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 21 年 11 月 1 日から施行する。

附 則【情報研究所から情報教育研究所に改称】

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

江戸川大学 情報教育研究所
データサイエンス・AI 教育推進室に関する内規

令和4年4月1日制定

(趣旨)

第1条 この規程は、江戸川大学情報教育研究所データサイエンス・AI 教育推進室（以下「推進室」という）の運営及び点検に関する事項について定める。

(目的)

第2条 推進室は、本学におけるデータサイエンス・AI の活用を通して、Society5.0 に向けた文理融合人材の育成に貢献することを目的とする。

(推進に関する活動内容)

第3条 推進室は、前条の目的を達成するために次の各号に掲げる活動を行う。

- (1) データサイエンス・AI の学修に必要なカリキュラムの研究・開発
- (2) データサイエンス・AI の学修に必要な教材の研究・開発
- (3) データサイエンス・AI の教育に必要な指導法の研究・開発
- (4) データサイエンス・AI に関わる学修データの調査・分析
- (5) 履修案内を含む学内外広報
- (6) FD/SD 研修会での活動報告
- (7) 他大学、研究機関、研究者との交流
- (8) その他、目的達成に必要な活動

(自己点検・評価に関する活動内容)

第4条 推進室には自己点検・評価部会を設置し、次に掲げる事項について点検及び評価を行う。

- (1) データサイエンス・AI 教育に関する授業内容について
- (2) データサイエンス・AI 教育の推進について
- (3) その他、データサイエンス・AI 教育の質の向上に関する事項について

(推進室運営組織)

第5条 推進室は、情報教育研究所員がその任に当たる。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、情報教育研究所運営委員会の議を経て、情報教育研究所長が行う。

江戸川大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」取組概要

本プログラムを通じて身につけることができる能力

今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付ける。さらに、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できる。

プログラム修了のための必須科目

右記学科を除く
全学部全学科

メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科

	データサイエンス 概論(2単位)	情報リテラシー I(2単位)	情報リテラシー II(2単位)	こどもコミュニ ケーション論 (2単位)
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	◎	◎		◎
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	◎	◎		◎
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	◎	◎		◎
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	◎	◎		◎
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	◎		◎	

修了要件

学部学科ごとに、表にある科目全ての単位を修得する



修了証

上記必須科目以外のオプション科目：「アルゴリズム」「プログラミング基礎」「データベースI」

情報教育研究所

運営委員会

データサイエンス・AI教育推進室

- ・カリキュラム、教材、指導法の研究・開発
- ・学修データの調査・分析

自己点検・評価部会

授業内容、質向上
プログラム実施体制

カリキュラム・授業
運営での連携

授業内外での
学修支援

メディアコミュニケーション学部 情報文化学科

学科委員会

授業開講・運営

オプション科目

プログラム必須科目

プログラム科目

関係する全学組織

総務部学術情報課

総務部企画総務課

自己点検・評価
委員会

学務部教務課

学務部就職課

教務委員会

基礎・教養
教育センター

各学科・センター